

(様式1) 令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572706323		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	グループホームひだまりの家		
所在地	秋田県横手市増田町吉野字梨木塚101-1		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和4年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『ゆったりとした暮らし』、『その人らしく生き生きした暮らし』、『地域とのふれあいを大切に暮らし』を念頭に置き、入居者様一人一人が居心地よく生活できるように配慮している。個々のペースを大切に、起床や食事の時間、入浴のタイミングなどペースに合わせた対応を行っている。医療面では訪問看護と契約し週1回の訪問で健康管理を実施し、体調管理に努めている。また歯科医の指示のもと、歯科衛生士も月に1回訪問し口腔衛生に関する連携を図っている。可能な限り在宅時のかかりつけ医を継続利用し病状の把握、安定に努めている。食事については買い出しや献立の検討、調理に積極的に関わっていただいている。コロナ禍以前は近隣の保育園、小学校から運動会や学習発表会へご招待していただいていた。現在は地域文化祭への出展をしている。帰宅願望時の電話対応や受診の付き添いなど、ご家族にも積極的に携わっていただき共に入居者様を支えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日のようにホーム周辺の散歩をしたり、春は観桜や畑を眺めたり、ドライブで秋を満喫したりと外出に力を入れている。成瀬ダム、東成瀬の天正の滝、山内道の駅、横手城等々、行先には事欠かない立地条件にある。入居者が大好きなドライブを思い立ったらその日の内に出かけられる態勢を大切にしている。スタッフからは「慌てず、基本に立ち返る。」「ケアプランの作成時や日常の支援においても理念に立ち返る。」「相手を責めず、互いに守り合う。」との言葉が多く聞かれた。「ゆっくりとした時間の流れを大事にし、地域へ出向くフットワークは軽く、一人ひとりに関わる時間を出来る限り多くする。家族の理解協力のもと、帰りたい気持ちに寄り添う。」との管理者の言葉から、グループホームはどうあるべきかの基本を常に大切に、日々努力しているホームといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様ひとりひとりがいきいきとゆったりと過ごして頂けるような関りが出来ている。やりがいを感じて頂ける様毎日のレクリエーションへも取り組んでいる。	理念は、7～8年前に当時の全スタッフで、自由討論方式で多くの独創的な意見を出しあいながらアイデアを生み出していく方法を活用し作成した。玄関を入り正面上の誰からも見やすい位置に掲げられている。「慌てず、基本に立ち返る。」「ケアプランの作成時や日常の支援においても理念に立ち返る。」「相手を責めず、互いに守り合う。」等々のスタッフからの言葉から、グループホームはどうあるべきかの基本を常に大切に、日々努力していることがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において交流が難しくなっているが馴染みの美容院、八百屋さんや精肉店への注文、配達、イベント時のお弁当等つながりをもっている。	地域の文化祭に出品した大きな貼り絵が廊下に展示されていた。小学校の学習発表会等に招待され、出向くとのこと。馴染みの床屋を長らく利用している方もおり、送迎のみホームで行うなど地域の店舗とも連携が取られている。地域のかまくら行事と併せて行われる小学生による「ミニ梵天」がホームの楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にてお便りにて報告している。	毎回全家族へ参加案内を発送しており、1家族のご夫婦でいつも参加してくれている。民生委員、地域協力員である消防団員、行政職員が構成メンバーである他、市の市民サービス課の職員も毎回参加している。偶数月の午前、約1時間とし、前もって曜日も固定し開催している。活動内容、入居者の状態、実施計画、各委員会の活動方針、行事計画等々について毎回紹介しているが、コロナ禍により書面での開催が長く続いている現状にある。以前家族会の協力により実現していた焼き肉大会については、運営推進会議からの提案で、地域肉屋のケータリングサービスによるバーベキューへと形を変え、継続をすることが出来たとのこと。	長らく書面開催しているが、参加者からの意見や要望、質問が殆ど確認できない状況にある。返信用の書式を同封する等、ホームなりに工夫するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議資料送付にて報告している。 介護相談員が月一回来園している。	市の担当部署とは、必要に応じ気軽に連絡しいつでも相談できる体制にある。市南部地域包括支援センターの介護相談員が毎月訪問し、入居者やスタッフとの面談から入居者個々のニーズ等を聞き取る活動を実施しており、市とホームの協力関係の構築に寄与している。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて不適切な対応についてや身体拘束、虐待について振り返る機会を設けている。また、日頃からの関りで特に注意をして関わっている。 身体拘束の事例はない。	「適正化のための指針」が整備され、身体拘束廃止委員会が3ヶ月に一度開催されており、開設後対象者は皆無である。定期的に身体拘束廃止に向けたチェック表を活用し全スタッフが確認することで、その防止に努めている。研修の実施記録からも身体拘束をしないケアに取り組んでいることが確認できた。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回勉強会を開催している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時や入居時に管理者が説明をしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、面会時、介護計画見直し時等に、要望や意見を伺うようにしており、運営に関する質問や意見があった際には、直ちに上司への報告を行っている。	「通院時に受付をすると受付票が発券されるが、その受付票がなくても受診することはできないか」との家族からの相談を受け、受付票に記載されている呼出番号を伝えることで診察を受けることができるよう病院側に依頼し、改善したことを確認した。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	会議での意見の出し合い、都度管理者へ報告、相談を行っている。 管理者も会議へ出席している。	職員会議に向け、事前に全スタッフから議題や意見等を記載し提出する書式を定め、会議に望む体制を整えている。互いに意見交換がしやすく、風通しのいい働きやすい職場環境である。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により研修の機会が少なくなっておりできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時の情報収集にて会話や言葉を記録に残し、思いや要望を職員間で共有している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡等に、近況等を伝えるようにしている。月1回位のお便りに、ご様子が分かるよう写真を載せたり、細かなことでも、ご家族に連絡し話ができるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理、園芸等は、職員だけで行わず、入居者と一緒に行っている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向や希望について、ご家族様と一緒に考えたり、ご本人の思いを伝え、出来るかぎり、要望に添った支援が出来るよう努めている。 不安な思いがある時などはご家族に電話対応していただいている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	昔から通っていた美容室に行けるよう支援している。 公衆電話を設置いつでもかけられるようにしている。	生家へのドライブ希望に対応したり、昔からの馴染みの美容室へ送迎したり、個人の要望に対応している。先日は衣類の購入希望があり職員が付き添って一緒に出掛けたとのこと。ドライブがてら墓参りへ行くこともあり、感染症対策を万全にしながら馴染みの人や場所との関係が途切れないよう配慮している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯たたみや製作活動等と一緒にやって頂く等、入居者様同士で会話を楽しんだり、関わられる環境を多く持てるよう、取り組んでいる。他入居者様の居室を訪ねたりされている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて自宅復帰される利用者様の御家族から必要物品などの問い合わせあり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子、表情、気づいた事から知り得た情報を、記録に残し、職員間で情報共有している。介護計画見直し時に、ご本人、ご家族様の要望を伺っている。	生け花サークルに通っていた入居者が正月等に花を生けてくれたり、プロの洋裁師だった入居者は雑巾縫い等をホーム内の役割としたり、得意なことを活かして生活できるよう支援している。料理も、下ごしらえから食器の拭き方まで出来ることは率先して入居者が手伝っている。プランターでの野菜作りも楽しみの一つとなっている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人のお話の中から、生活状況の把握に努めている。日々の状態変化を観察し、記録に残している。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意見や要望を取り入れ、ケアプランを作成している。	日頃から関係者やスタッフ間でそれぞれの意見やアイデア、気づきを共有し、全スタッフで介護計画を作成していることがうかがえた。「異なる一人ひとりに合わせる」とのスタッフの言葉が印象的であった。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、日常生活に関する事や様子問題点等を共有し、ケアプランの見直しが行いやすい記録を残すようにしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に利用者様と作った作品を出店している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師、月1回の歯科衛生士の訪問診療を行っている。かかりつけ医への受診を行い、必要時、訪問歯科の往診もお願いしている。	訪問看護師へは24時間いつでも連絡できる態勢にある。急変等で病院へ連絡する際も訪問看護師を介せることが安心感につながっている。月1回の歯科衛生士の訪問診療を利用できることもこのホームの強みである。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間訪問看護師との緊急時連絡体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	平鹿総合病院が協力医療機関となっている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し同意を得ている。	基本的には看取りは実施しない方針とのことではあるが、家族、主治医、訪問看護の連携により条件が整えば看取りを実施することもあるとのこと。今まで、多くの看取りの経験を有している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についての手順書を定め、冷静に行動できるように努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち合いの元、昼間、夜間想定で通報、誘導等の避難訓練を行っている。	ハザードマップ上は、特に危険区域ではない。避難訓練は、同法人の隣接する介護老人福祉施設、グループホームそれぞれが実施しているが、同期日に時間をずらして実施することで、消防署の立ち合いに配慮している。過去の避難訓練での避難状況や消火訓練の記録写真や消防署からのアドバイス等を確認できた。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会の実施、認知症の症状の違いを理解し、入居者様の思いを尊重し、関わり方を考え、支援している。	トイレ誘導等、他の入居者に悟られないようホームスタッフ独自の隠語をさりげなく使用するよう配慮している。プライバシー保護についての学習会では、各スタッフが配慮にかけている点を互いに出し合い検討することで、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に取り組んでいることが確認できた。日常の支援では、感情的になる一歩前でスタッフが互いにさりげなく注意し合うよう取り組んでいる。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や、希望時の訪問理容の計画、美容室への付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理や調理、盛り付け等に携わって頂き、入居者様と食事準備を行っている。季節感や、年間行事にも配慮した献立になるよう、取り組んでいる。誕生日には、入居者様の好きな料理を提供している。	食事の準備から後片付けまで、出来ることは出来る限り入居者に手伝ってもらおうように特に力をいれて取り組んでいる。事前の献立はなく冷蔵庫と相談しながら、また、入居者からの提案があれば臨機応変にメニューを決めている。食材の買い出しも入居者と一緒に出かけている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日記録に残している。食事量、水分量の低下や、体調変化が見られた際には、食形態の変更や補色を提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行なえる方は自分で行なって頂き、仕上げ磨き、うがいの声掛け等、介助が必要な方は職員が対応している。月一回歯科医師の助言を受けた歯科衛生士が口腔内の状態を確認している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、排泄パターンを把握し個々に応じた声掛けを行っている。排泄用品の交換が必要な方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	利用者9名分の24時間の詳細な状況が排泄チェック票に記録され、長期の排泄状態が一目で確認できるよう個別のデータとして記録されている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるように、好みに応じた飲み物を提供している。また、体操や室内の散歩をするなど、身体を動かす機会を設けている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご希望に応じ、日中の時間帯に入浴介助を行っている。入居者様それぞれのシャンプーや数種類の入浴剤を使用し、入浴を楽しんで頂けるよう、取り組んでいる。	脱衣室の個別のケースに個々の好みの入浴用品が確認できた。見守り程度で自分で入浴できる方は1名とのこと。寒い冬も脱衣室や浴室は快適な環境に設定されている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご様子に応じ、臥床時間を設けたり、夜間は各居室にて過ごして頂いている。希望時はフロア協の和室で寛がれている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に、状態変化や生活状況について報告している。薬剤説明書をカルテに綴じて確認している。薬局や訪問看護師と連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や読書、音楽鑑賞等の趣味の時間を楽しんで頂ける様支援している。家事仕事に積極的に参加していただいている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や、ドライブを通じ、気分転換になるよう定期的に計画している。天候に応じて、外でのバーベキューやお茶会を行っている。希望により買物支援を行っている。	毎日のようにホーム周辺の散歩をしたり、春は観桜や畑を眺めたり、ドライブで秋を満喫したりと外出に力を入れている。成瀬ダム、東成瀬の天正の滝、山内道の駅、横手城等々、行先には事欠かない立地条件にある。入居者が大好きなドライブを思い立った際には、同法人内の老人保健施設の車も活用し、その日の内に出かけられる態勢を大切にしている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理で持参されている方もいる。また、紛失の可能性のある方は会社の金庫で預からせて頂いている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をベランダで育て、種を取ったり、季節の壁飾りを入居者様と作成している。快適に過ごして頂けるよう、温湿度調整、換気を行っている。	築21年のホームは、床暖房であり冬もほのかに暖かい。ホールには和室があり、行事や運営推進会議の会場として活用したり、毎日の昼寝を楽しむ方もいたりと重宝している。ホームからは四季折々の鳥海山の雄姿が楽しめる。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や食堂は、好みの場所で過ごせるようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具や写真、小物等を持参して頂いている。居心地の良い居室作りに努めている。	居室の冷暖房機器としてエアコンが設置されている。成瀬川が近く、川の音が聞こえ、周囲の山々の季節の移り変わりを感じることが出来る。開設時は各居室とも家庭用のベッドを配置していたが、入居者の状況に合わせてレンタルを利用したり、ホームとしてギャジベッドに変更したりして対応している。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい案内表示やお知らせ等を使用し、充実した生活が送れるように取り組んでいる。手すりの設置や介護用品の使用にて安全な環境作りに努めている		